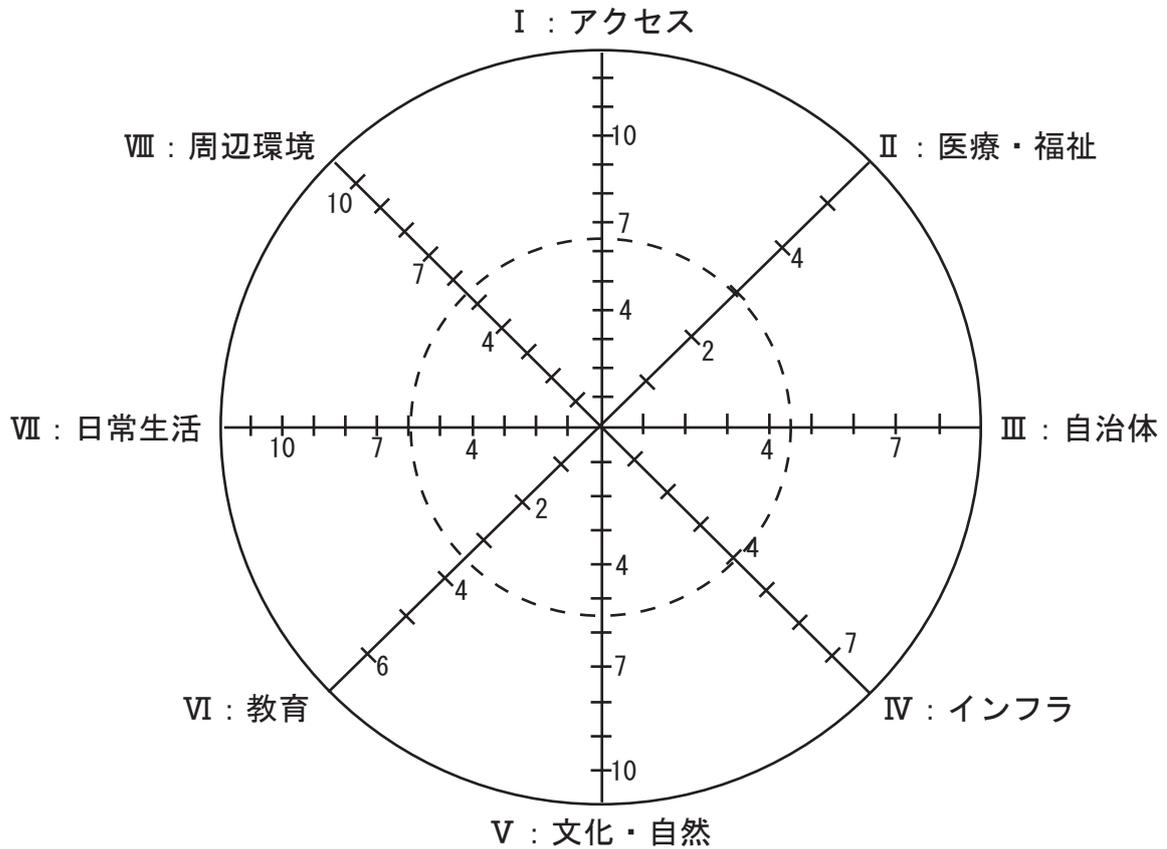


第1回「環境のよい土地とは」



【チェックポイント】

I : アクセスに関する期待度

駅前には閑静な住宅街は少なく、地価が高いものです。良好な環境を望むなら、駅から少し離れる覚悟がいります。交通の便のよしあしが、家族のだれにとって重要なのか。家族構成や年齢なども考慮して判断しましょう。

II : 医療・福祉に関する期待度

子育て世代の若いカップルにとっては、万に備えて小児科の医療施設が身近にあると安心ですね。中年以降では、加齢による衰えなどで、医療や福祉の世話になることをお忘れなく。

III : 自治体に関する期待度

近い将来は、インターネットを通じて書類などの申請・交付ができるようになるでしょうが、いざというとき自治体が近くにあると便利なものです。住んでから「どこにあったっけ?」ということのないようにしましょう。

IV : インフラに関する期待度

いまや電気や上水道が敷設されていないような住宅地はないでしょうが、LPガスの地域は多く、下水道の普及率はまだ70%程度。今後期待されている光ファイバーやCATVなどのインフラも考慮しておきたいものです。

V : 文化・自然に関する期待度

「ロハス」という生活スタイルがはやっていますが、ゆとりある暮らしに文化や自然は欠かせないものです。しかし、文化と自然は相反する場合もあるので、バランスが大切です。

VI : 教育に関する期待度

人生の中では決して長い期間ではありませんが、教育はその後の人生に大きく影響するので、軽視することは許されません。

親の視点からだけでなく、お子さんの視点からも見て判断しましょう。

VII : 日常生活に関する期待度

駅に近くて、静かで、緑に囲まれ、医療・文化施設が身近にあっても、商店がない街は住みづらいものです。加齢も考慮し、あまり遠くまで行かなくても食料品や衣料品が揃う環境が必要ではないでしょうか。

VIII : 周辺環境に関する期待度

長く住む以上、近隣との付き合いは欠かせません。また、用心が悪かったり、騒音の気になる街も問題です。どのような方が住んでいるのか、家の規模やデザイン、メンテナンスの具合なども参考になります。

【傾向と対策】

※ I ~ VIII どの項目でも、点数が多いほど条件の厳しい土地を探しているという傾向を示唆しています。

長く住むうえで、家族構成や暮らし方は変化します。周辺環境もその街の歴史や自治体の行政方針により変化しますが、個人レベルで変えることはできません。そのため、住まい手と地域の将来を予測しておくことが重要なポイントになります。

今現在の環境だけでなく、将来性を見越して選ぶ「先見の明」が必要です。また場合によれば、環境の変化に住まい手が柔軟に対応していくことが求められるのではないのでしょうか。